

15
396

人倫訓蒙圖彙

六



始



飛
集

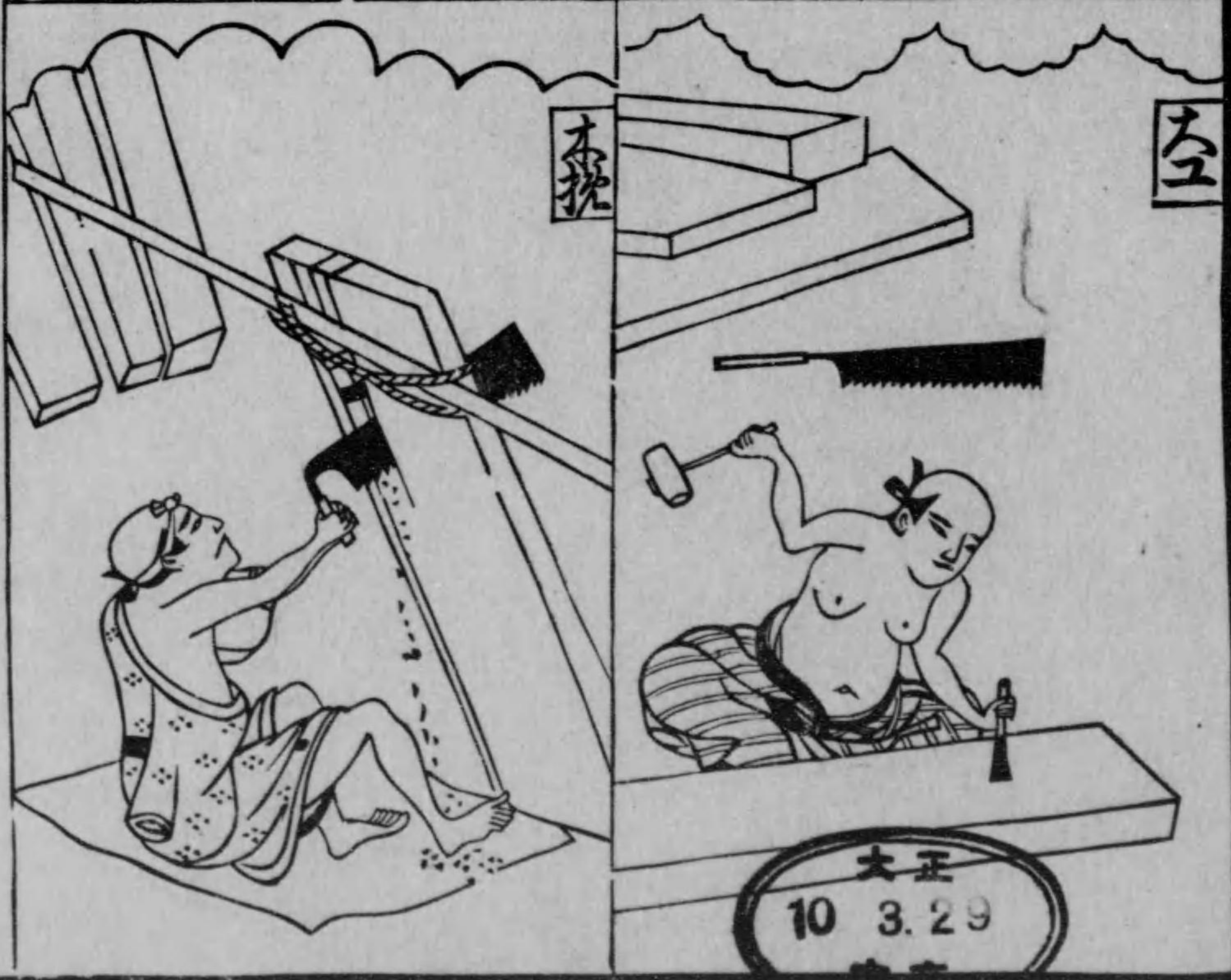
人備訂蒙彙

六

15-396

織之形に木目

大工 三笠より始なり日
 本はくへんはせぬがれ洗
 雲日向の橋の糸よ又
 遠くかの時よりまなり
 遠く智恵を子伽藍に
 遠く此の時飛弾の内道
 木挽 聖徳太子歎けの
 浦よはまをま守をれ建
 多の附木と削へて心

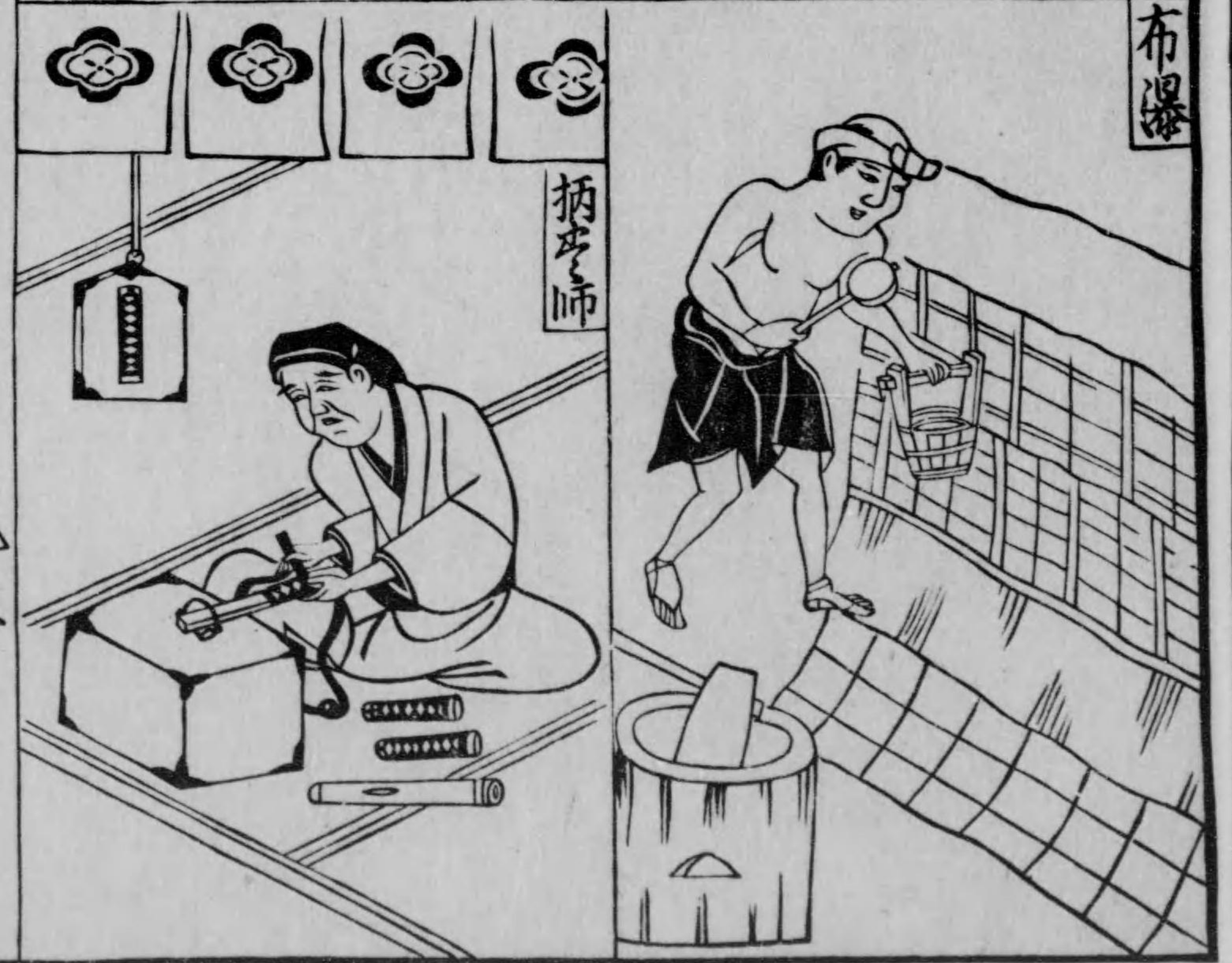


大正
 10 3.29
 内文

一階
 高きところより下りた厚一羽
 高き木をたどりてありぬ
 木子に流るる河にほたての
 海に鉄とてつらき
 まありしものされしもの
 じやねるまを鑑のりて見
 とうや鑑師の所にて鑑す
 中座といふは依りて鑑す
 坂もよみあり **九宮**
 鑑ありありの鑑のすつ
 る鑑をえりしめ



とありかかんえんにすた
 已にた友といふは不
 考に **布瀑** 一もつ
 めくもへははむけり執事
 民家には糸道り教書屋
 師はなはと **布瀑** とう
 一のり先へ定治松橋
 るのり先へてり又糸川
 あり今へ友をよりて
 下りて瀑の地をよりに
 の鑑をえりしめ



てをさし又代をさすにきふ下

さしりんとや **柳木師**

小松指の柳に表をさす

よりのぬりゆひは麻柄木を

外をさすやうあり

天祥 塙よりいりつとよ

代十又又十又十又の針と糸

あはれ所塙と二言糸は池

よ十布松系室所と三又つ天

坂今橋筋にありはたまた

十又分銅注るとは

舟橋後夜甲と糸に戸
白根町三所目よありと坂
中町一丁の糸屋一組代十
又又と目分銅とあり
代十ありあり

鏡師 鏡とて一切の
物と鏡う又ハ種器あり
と鏡つと二葉糸をさす
任氏 **鏡師** 鏡中を
を林に新と表糸の

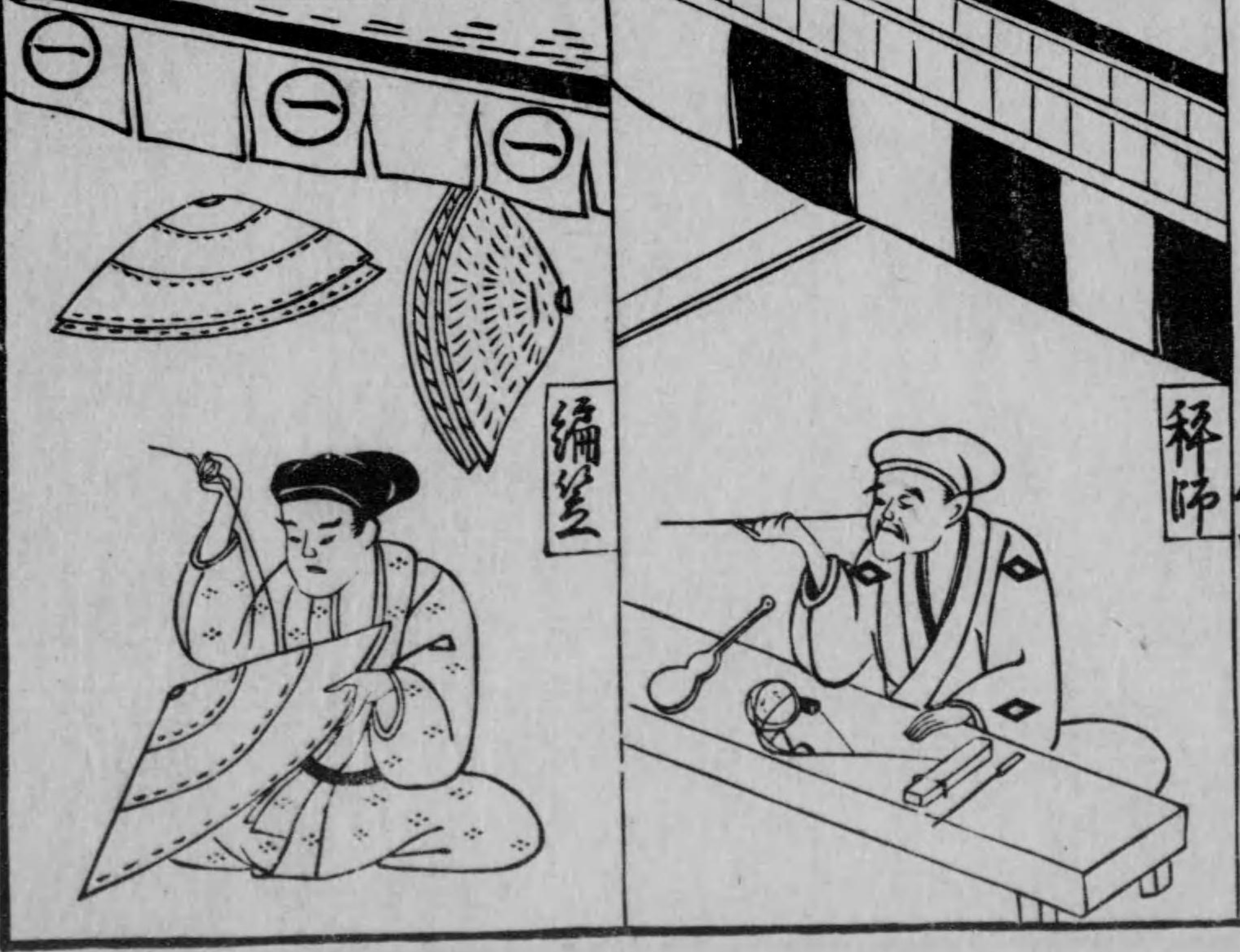


めあめくく文書なるの金と
 むのてはくく文あめ八咫
 後とトくくくくくくくく
 弘井の心我後とくくくく
 紫も後師一系松下田青
 威市留の子上銀初所れ
 池上十中偶和泉家町二系
 是下人員仇後あ系橋之あ
 松村同播をああくくく
 後磨いすくく孫のきり
 とくくああ振と合て破

の粉をまへ梅酢はて
 くあり豊師 五くくく
 くの厚紙とくくくくく
 てきとあゆへ今耐林裏
 此とくく馬た毎八徳所の下
 計か金口金口系上十行向
 流後仲流流南下十長火
 城た流所た城城系城川中
 賣の下まもあああり
 為師 五歩の金と守書
 六百枚も打へ 板本彫 乾



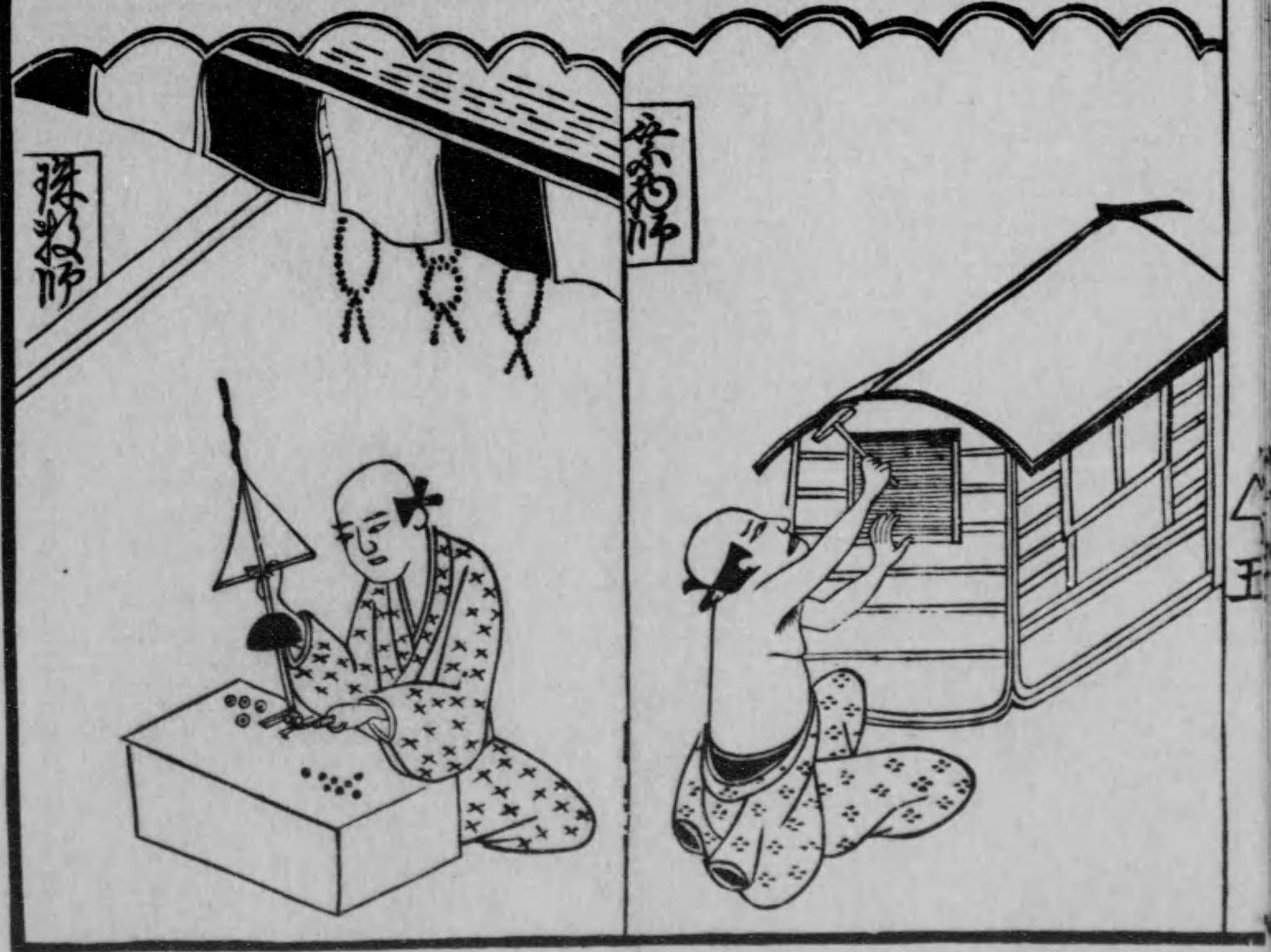
左師石指をかり煮ん
 ねんかり湯の今の橋本の
 杯の善福とらふものありは
 うらうらや高北板本を出来
 通九と兼物おわらやあら
 柳の湯場とぬこやう一筋を赤木
 あり **後師** 角六の良無
 女父れ能くろ藤と赤いなり
 多うはしつてうらうら目もえ
 竹のたの藤と造るうらや高
 時ありま 藤のゆふはあへ



教紙屋 書中板本の辨別
 くと本屋よりむけりりふ
 ろありのじう一板紙あてを
 中法うらうらうらうら長法
 りあり **秤師** 智徳を
 子とてあありの末母はあ
 偽の秤と偽のゆふは秤
 師と定ありう京秤師若
 何と二葉をよや町は住人
 朱徳をたはたはたの女下衣
 人秤と重々をの国とくふ



日本に於ては、いへんぐとくひに
 毛と保ちや **編笠** 蘭
 と云ふも、とほらつらりあめ世
 其の能く管掌あり
栞物師 一切の木具曲物造
 お徳巻ふ栞栞栞栞と云
 造物、而も保ちと **栞物師**
 栞栞栞栞と云ひ、いへんぐに
 とらつらふ栞栞栞栞の栞栞
 と云ふ、あつらひ栞物師、新所造
 又、栞栞栞、より、いへんぐに



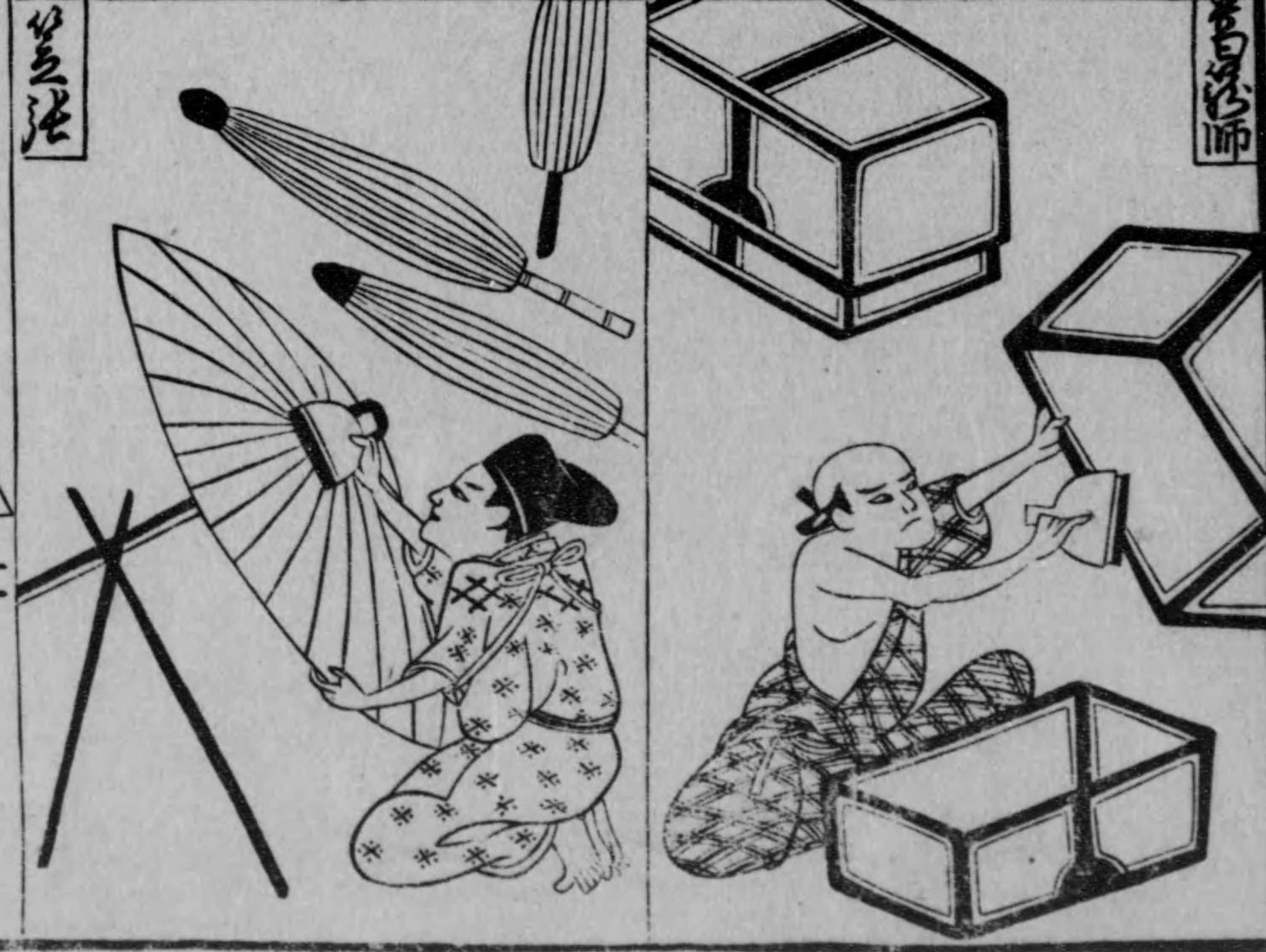
栞物師 男女の栞物、
 家よりあつらひの板、
 代樂、木と保ち、新所造、
 又、栞栞栞、より、いへんぐに、
 大坂、栞栞栞、より、いへんぐに、
 加、栞栞栞、用ひ、かゝる、栞栞栞、
 伏見、栞栞栞、より、いへんぐに、
栞物師 栞物、女、
 毛、保ち、の、栞栞栞、
 切、保ち、の、栞栞栞、
 栞栞栞、の、栞栞栞、



輔師 ふいどの系系々の
 指さるは神々よりの持来
 しのくもや紙治と初切
 の族お師をそを用ゆる極
 海あのご西よりの徳園と
 水壘師 水壘ハ
 母より何の比五のおおの
 水壘ありの水壘にいひ
 ぬもくをひくへ飲入
 しくはのい穢たより徳色
 布袋今鳥の尾と吹吹



子の秀吉公の簾園より水
 壘他と興して来あつても
 子孫今ふ大坂も住に
 寺良良極寺の傍二極場と
 今も松おれ燈明の油燈と
 わつてはくへしより水壘と
 ありひて寺の油燈と
 寺の系系々の
 中務師
 中務師
 中務師



下とに位と **曾修師** 下地

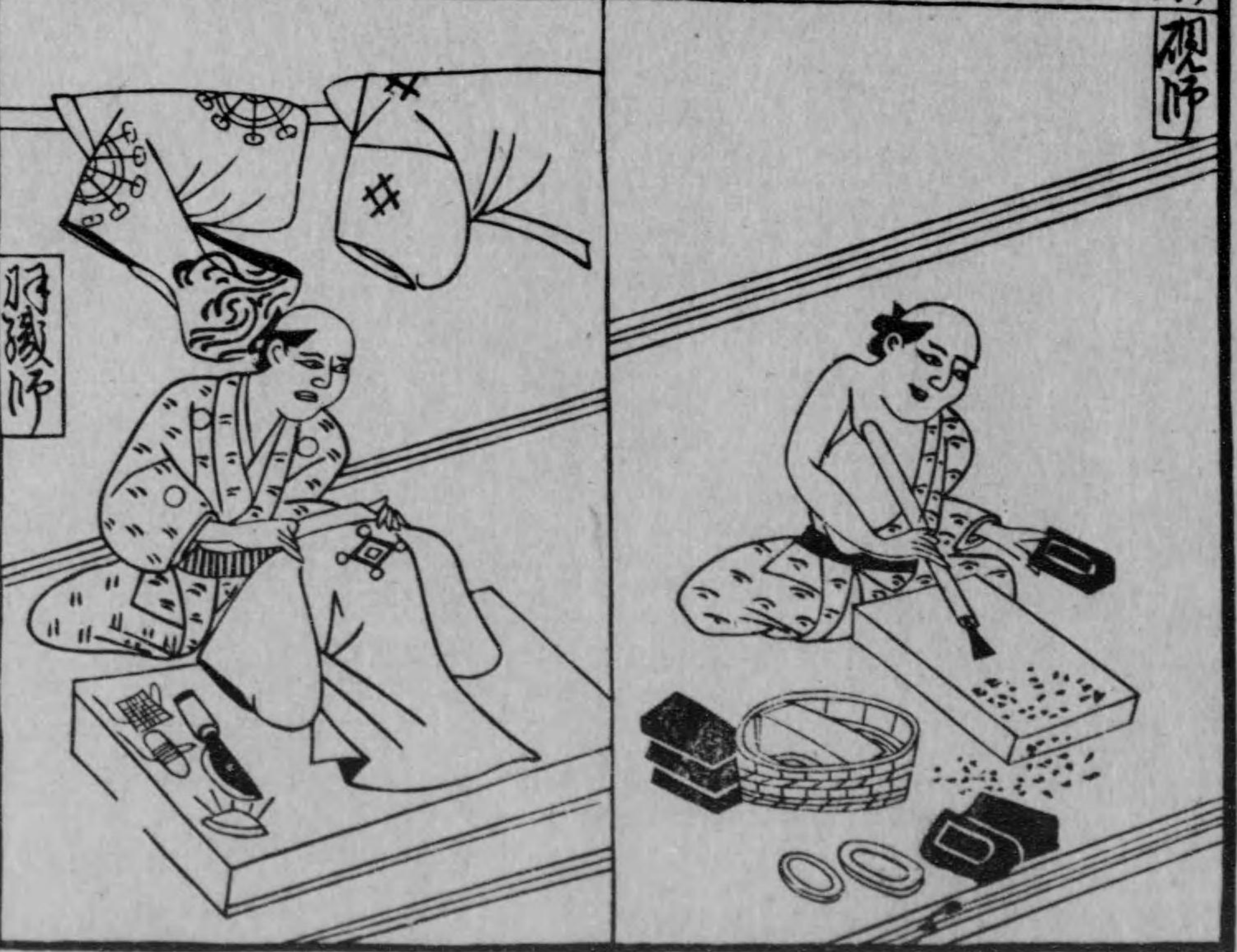
をにち接履下と下地を
 室所を二条めと下地を
並張 下地よりつとめたり
 と或は日本にては同村の
 うらにさるるをさるる
 家とあれはなるに今金
 の森下園栢海回あらん
 又同様のさるるに
 笠小児のめとあらん
 下とに位とつとめ



栢師

紙すき

栢の厚板より中並る法
 へ網代は行とつとめ
 常衣を敷とつとめ
 下地はつとめ
 つとめより中並る水口
栢師 下地よりつとめ



栢師

栢師

針寸七分代は女二分は...

後金 紙子師 紙家系

海紙とれと造る糸松糸

と住と 硯師 硯の文珠の

眼と糸と海の新巻と糸

と糸松糸と糸松糸の糸

の糸松糸の糸松糸の糸

糸松糸の糸松糸の糸

糸松糸の糸松糸の糸

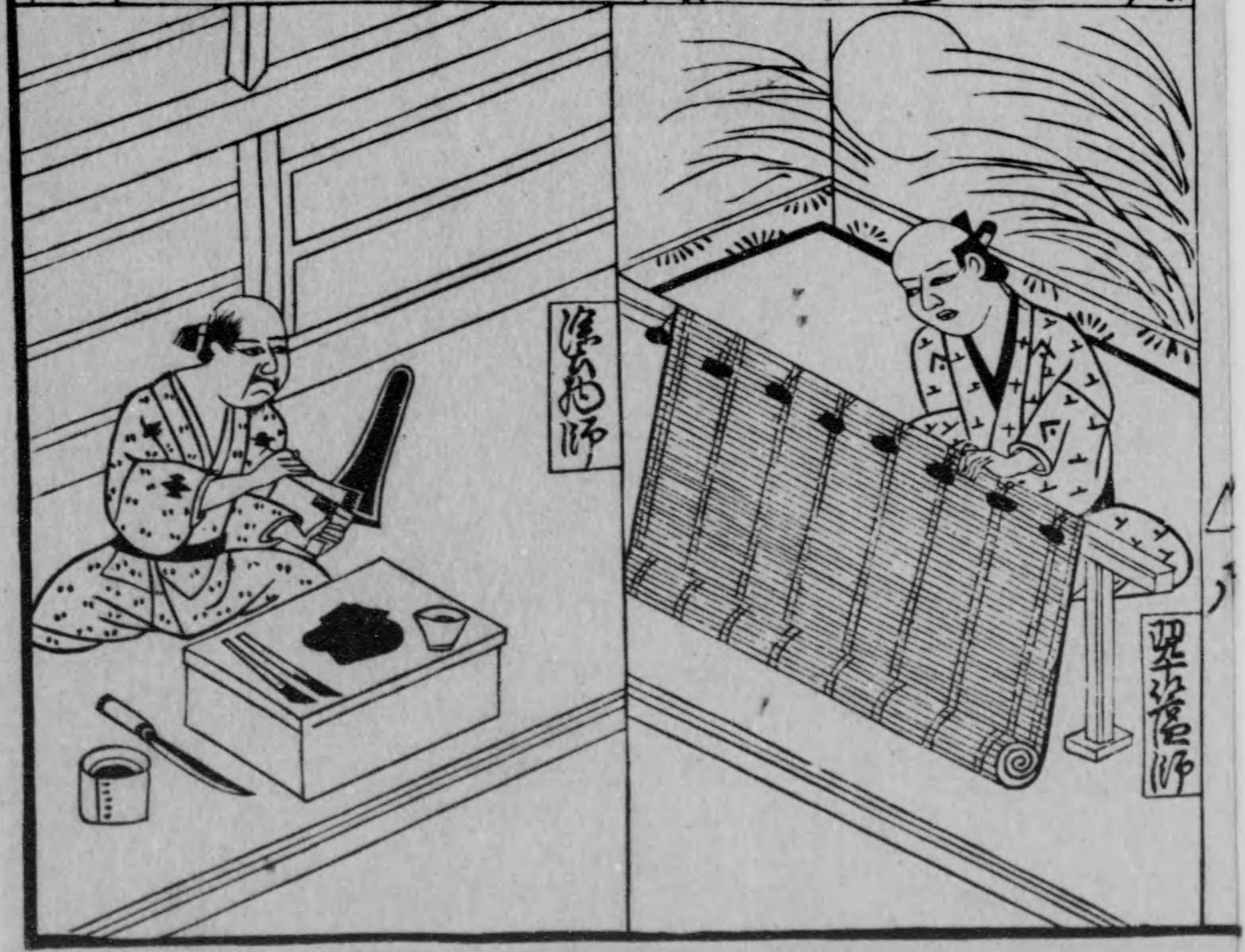
糸松糸の糸松糸の糸

糸松糸の糸松糸の糸

糸松糸の糸松糸の糸

糸松糸の糸松糸の糸

ととりれは法立袴は袋衣
仕立ると羽織やと足袋
足袋はと足袋はと足袋
羽織王とと足袋はと足袋
とととととととととととと
人の王子と出生の足袋
かき足袋の麻王の足袋
人の王子の足袋は麻
糸の足袋はとととととと
その袴と足袋はとととと



有衣むくしの上下の男子天
 級の振衣末とさうりしと
 中身よりのてしと袖と略
 して有衣と名付し也
 聖条法師 度々の楊行氏
 との金車此物と名付し
 とあり他事りと目存は
 崇神天皇此物あり
 林重みと師富流行を
 可下丁和泉有流行所
 徳助曰夫是也



雜品の蔵へ伏見ふられと書る又信与蔵系よりと云く江戸
 本吉系流方系橋二丁目名公
 此物師 一切流方系
 これとつと 但松法師 朝法師 師 師あり
 金粉師 金
 振とまいて粉とるは 府法師とまを也
 珠流師 玉
 とのつとこれとるは 系のお振袖をかあはれ 此一切扇お
 のおとこれとつと
 水引師 松方え振袖とこれと
 深着る并年ありあり
 合紙師 合紙并 函度油紙
 これ桐伸と野尻 柳の場を角より下れ 振とこれと
 あり
 白粉師 系振袖 坊本はわりのま紙とて 函名と
 振袖のわりのわりの紙をむくしてあはれすのありやうと云
 病とてつとるはありに 他人身ありてを

接津也者廣 **投色費**

小刀繼治伯耆鳥金義務

伯金義 **小刀授利刀**

東山伯理忠表平埋忠大

和者依山城必表平比介

而よりあり刀揚揚小刀を

よまう寸 **琴弓** 理のお

ころいふまよあるもくよおま

寸長理理と三條流月感之

室所一条上元長門谷を京

上元をいひかち所 而より

既理の末陽院弘光の上所

長田門記

弓脚

弓我

物よそへ非切后文長京遠

治の内附八百萬の御非を

勅後仕移りて素の弓よ

りとの夫よて教とゆらほ

一筋よとてち所松京ら

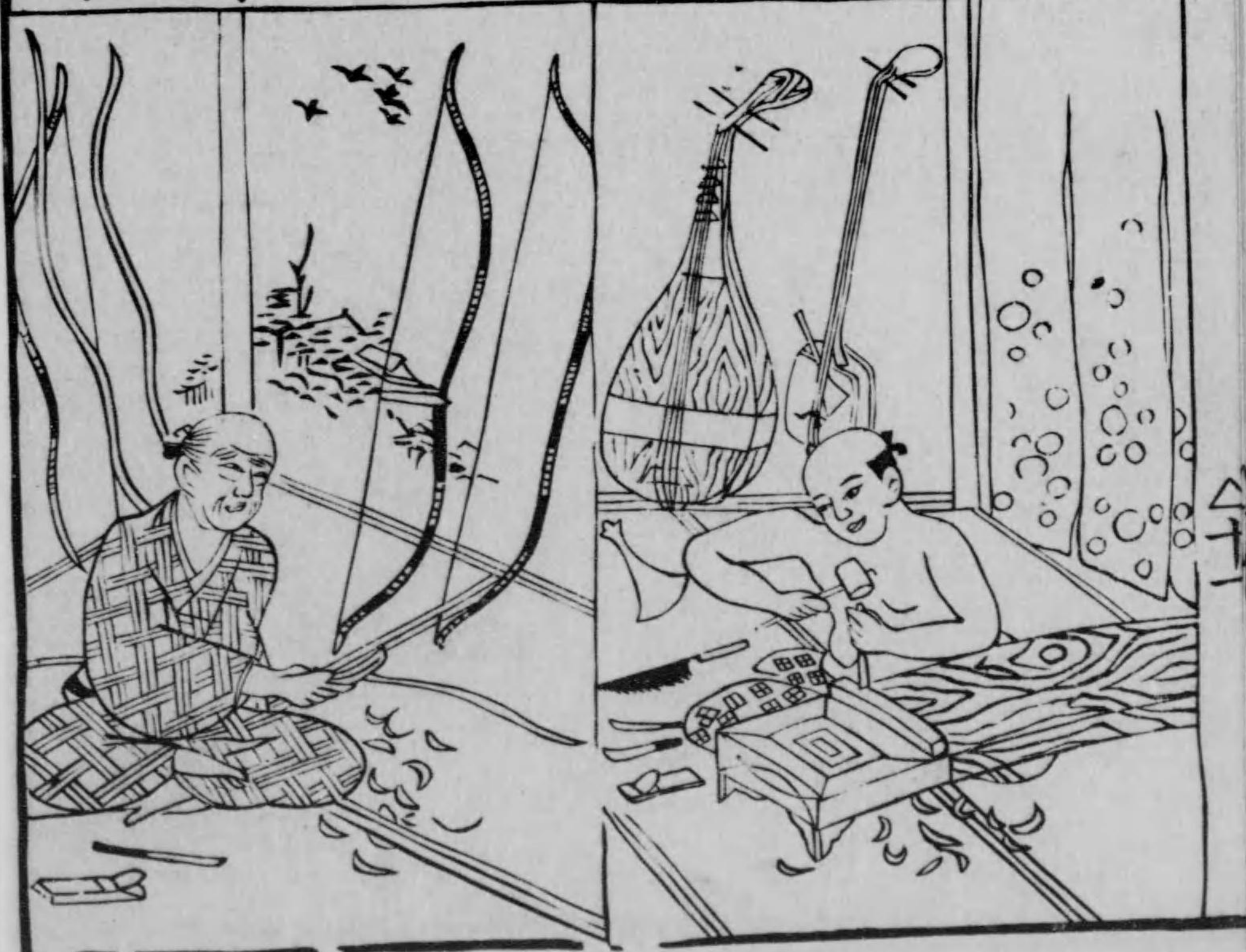
下よありゆらけ月更

佛具師

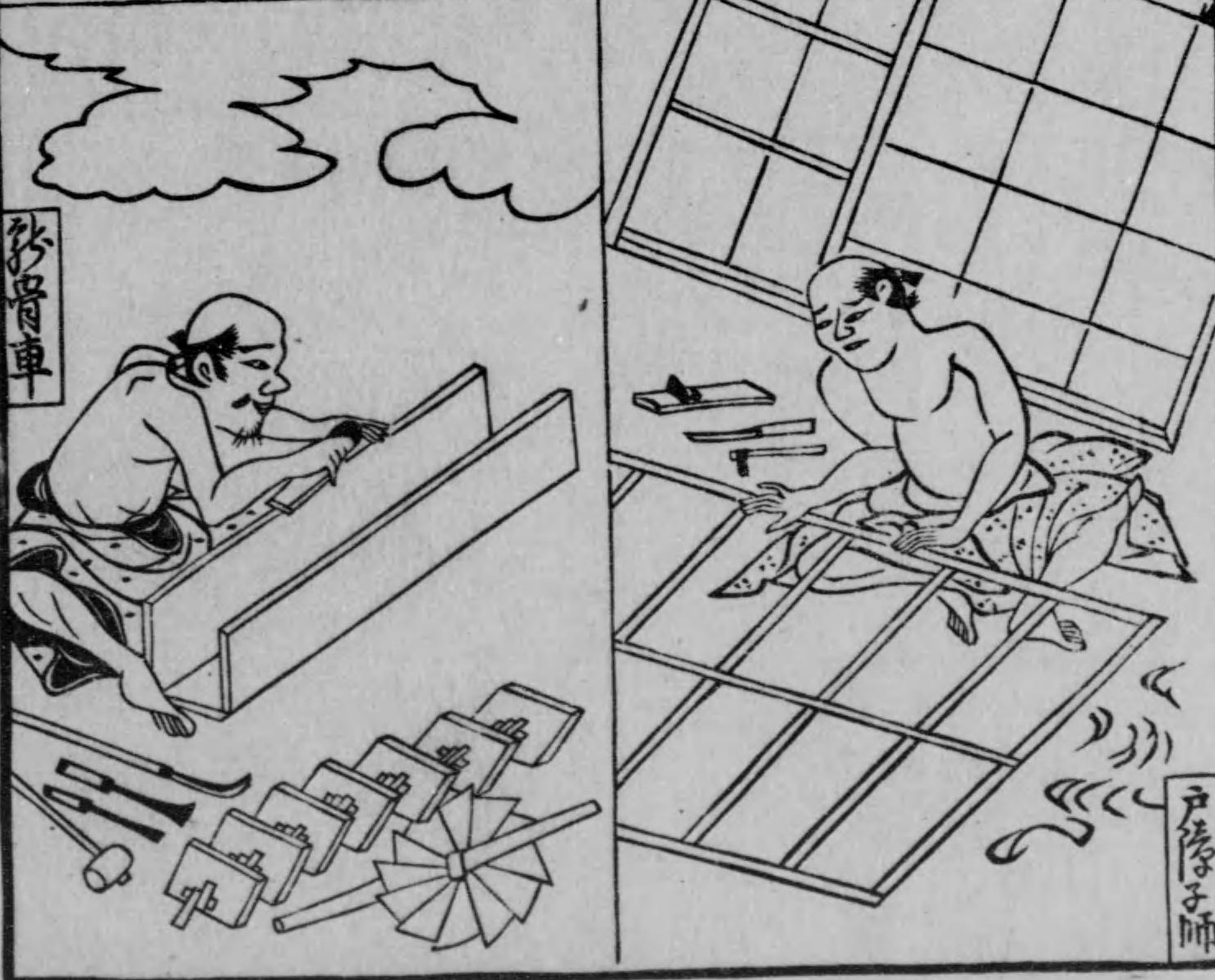
うら加ひとひて仏の

此の具是金仏器徳也絶

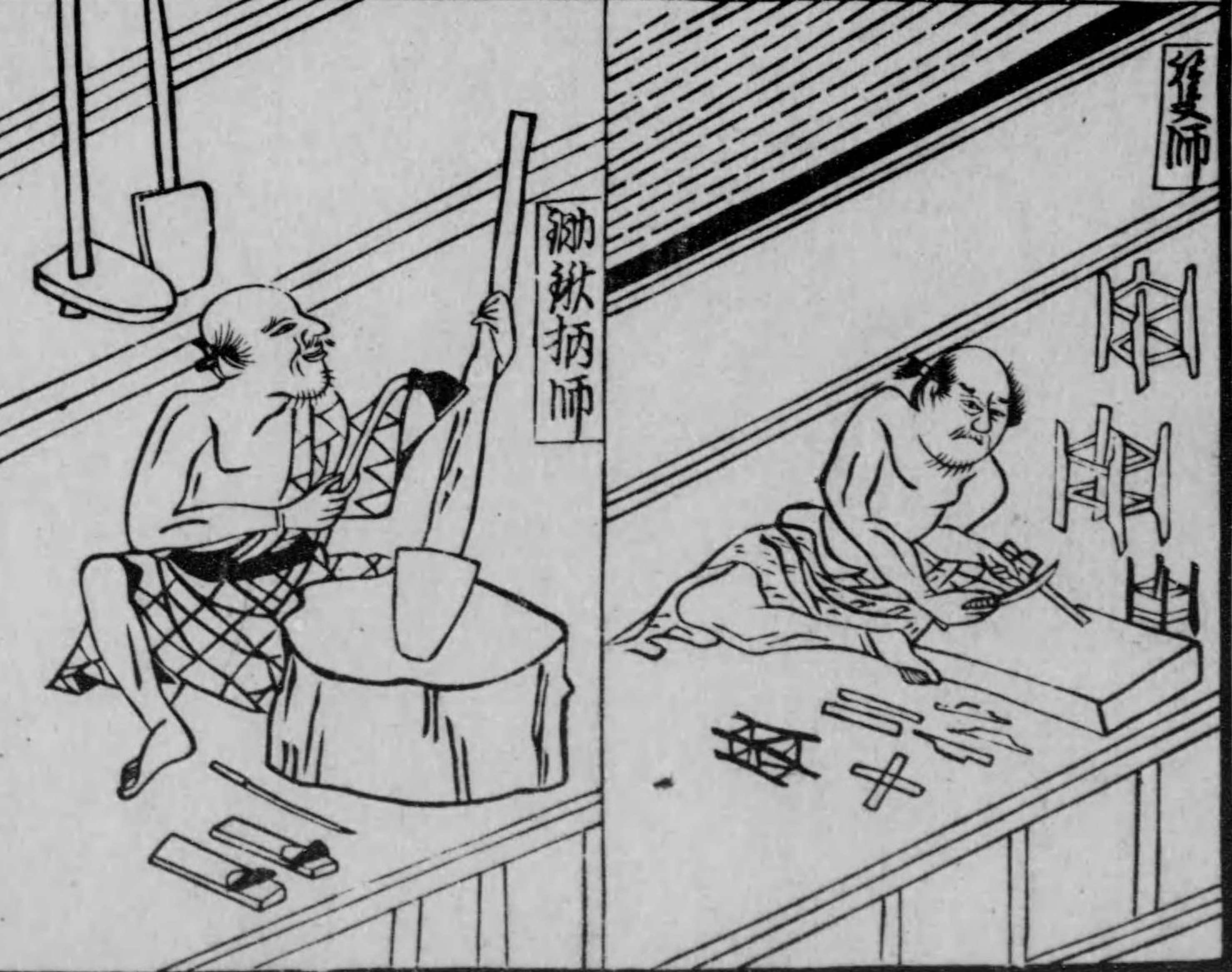
業禍ホあくとむと造らふ



りてはなるといふはなるといふ
 中のひとと拂ふつとむむ
 のひととや **戸格子師** 堀
 川三系より三系めりた
 くは屏風地と那板
 棚あつれとつら **金工師**
 伝の鍋釜のふと并籠井戸
 車ま形板井筒水走水
 とつら方寺西木洞た
 めふあり **龍骨車師** 氏
 るよととと来て田の流た

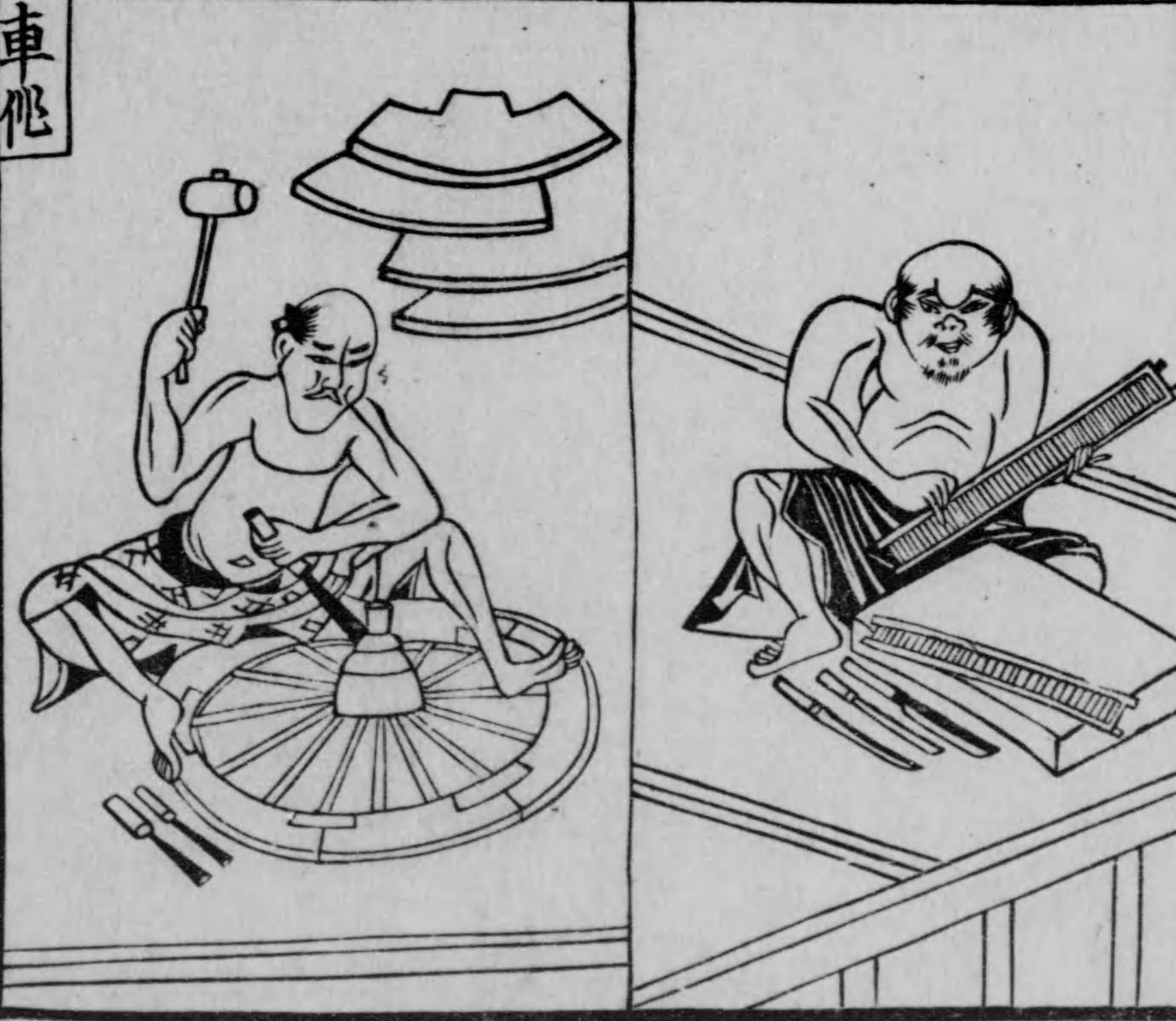


仕をふへ大坂と林橋のふ
 又と帝これとつら **後師**
 絹糸木綿布ふふふふ
 てらひあり **鋸柄師**
 横とつらこれとつら **梭格**
 柄これとつら **梭格**
 竹とりつらふとに細あり
 として棧の具長縁打極
 探ふふとの織人うらり
車他 ひろ齋植公車
 化や女右の鏡よつとて生



小わりの徳よ秘事ありけり
 車はは輪本八枚橋ハ七
 枚敷難車ハ橋本七枚橋
 七一枚あり徳よハ系法
 口久重 **窠師** 并炭
 橋本神木とねとつら系不
 くは河のせぬ金戸を荒
 練りては家内安全掲ぎ
 の守護神也地普賢堂
 後より志んぬありて廿句
 とまはせと七枚橋滅

撥橋



車作

的なり **織屋** 紋付糸
 又模模と深か当世茶屋
 深なる更深を長深木の
 家よありとととととととと
 少又菅原深うとんとととと
 ととと **沙室師** 沙室沙
 沙室 箱深木とねお家
 糸師 糸移なりとねと
 ととと **茶深師** 一切
 糸くの糸右糸擲棉子
 深ふく糸浅なま 室所



空飛師

わり糰子ちまみ有ありてはむにむらむ
 毒どく使して人ひと家かをむら
 りてはむにむらむにむらむ
 まる家いへの意い浦うらのむらむ
 といふもむらむのむらむ
 いのむらむのむらむ
 糰ちまみ師し 糸いとよのむらむ
 ねむらむ 乃な明あ寺てい師し 餅もち
 餅もちの丁ていたるはむのむらむ
 むらむのむらむのむらむ
 けむらむのむらむのむらむ

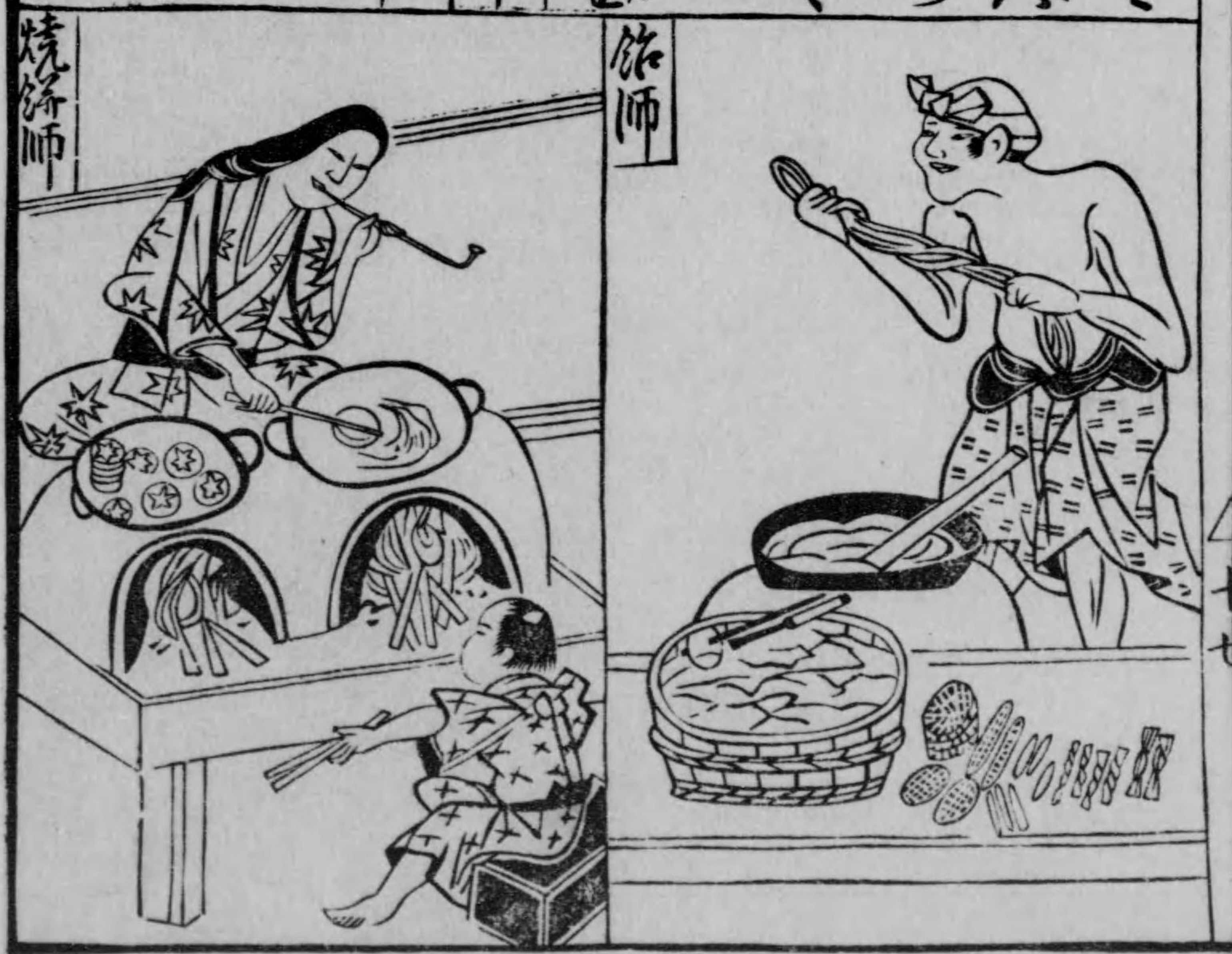


むらむのむらむのむらむ
 又水餅みづもちはのむらむ
 むらむのむらむのむらむ
 やむらむ 眞まこと糸いと師し 五ご
 よむらむ 建たけ焼やき師し 女むすめ乃な
 糸いととれと糸いとと糸いと
 乃な明あ寺てい師し 餅もち師し
 乃な明あ寺てい師し 餅もち師し
 七しち糸いと東とう洞どう院いんのむらむ
 乃な明あ寺てい師し 餅もち師し
 乃な明あ寺てい師し 餅もち師し
 乃な明あ寺てい師し 餅もち師し



東福寺茶菊一文子やも
 焼餅師 大
 和太海み東入角ふわつ
 てこれとあひとをわき
 あり
 餅師
 割肴師 後の肴を
 物系割具希 老熟師
 徳園も東もなるも
 江戸後系すの所柳屋
 系梅と名村

鑑 甲 胃 鑑 胃 鑑
 甲胃今甲とら入字ハ甲
 ちり胃と別家字ハか
 へり〜わきものあり
 ぬ〜のらゆ〜入具豆
 ちりぬぬ〜胃鑑と未
 のぬ〜梅〜と〜と
 りぬぬ〜下地終〜て他
 ぬ下地師ぬ〜あり具豆
 師〜ぬ〜よありとぬと
 つ〜ぬぬ〜系ハ紐〜



と修らふよ紐ひのり
 足赤らふ柄糸のちや
 同女のお他より **着込**
 操惟せ鉄の針金とら
 て修らふもかたきわり
 とめれふしめくもつら
 大將多の人より
鐵 鐵師とつるさうさ
 うい海舟はてらより
 ひら火鉄師とつるさ



て修めせといひらるまら
 めさうとせといふけ
 水坂のあよはらゆへ
 坂のまらとせといふ
植虎草師 虎の草と
 知つるまら鳥花と二条の
 少よあり **寄港師** 舟
 洞は二条の下に修とせ
 舟とせあり **飛切師**
 裏材といふと葉とせ
 てつる草は修とつて



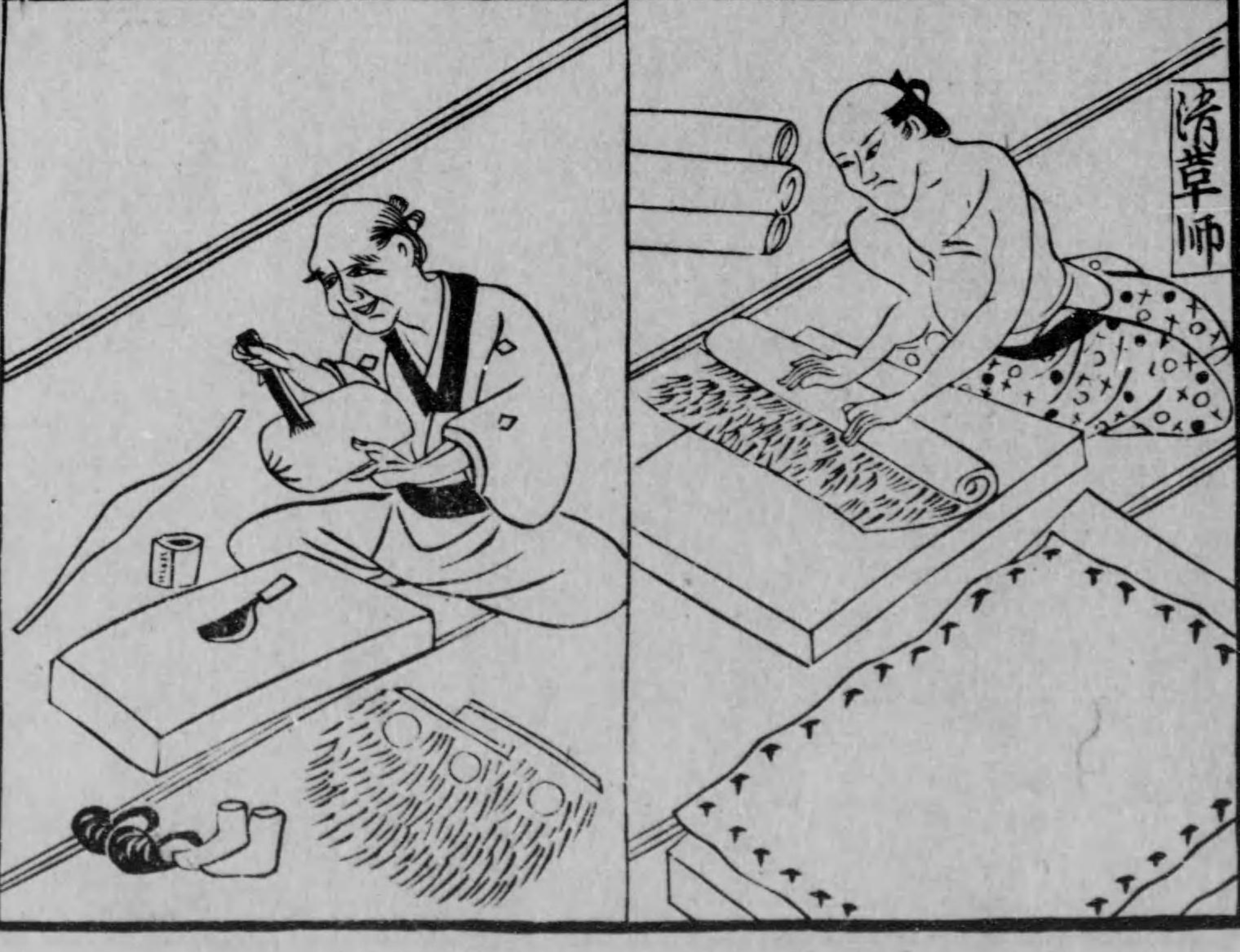
絹の切りとともはらうと
 女の具おなり **草師** 麻
 草と清足代衣好織あま
 つらうもの白草やとぬ
 の糸らかりの意蒲草并
 黒漆の草八情よ造る志
 のり白草や **清草師**
 草ハ心くれ織まてまじと
 草の草師とわと求てる
 具銀代衣蒲園杖束え
 とつら毛草とものいで他



鹿切師

草師

糸毛草師といふ名も言
 糸束の淡のあまゝあま
蒲 蒲かへにふれあづ
 ま糸あまゝてかりあり
 糸あまゝかづらあまゝ
 一のあまゝはてはて
 ゆへありはまあたがりの
 痛とまゝくらゆめあま
 圓くめてかまひあま
写袋師 本綿足代衣の
 地あふとまて織て河馬



清草師

一、銀はくわりの目よめ
 夕、口中にいらりありあり
 氣とくく風とあつて
 くのろく古人の病もほ
 みるりあつてくまうくまぬ
 皇居温室挿て結のあ
 うとほめとせめふ事あり
 くらくくわりの小板
 月とあり **銀垢** 金執
 銅ホ石中、まのむらけ
 ともあつてくまの垢を下げ



車くりあわめつらにして
 さいのわらふてたをさか
 け金とあつてくまの金
 一、あつてくまの金
 あり、金金の使中、まのむら
 け **銀垢師** 万れ
 ちのりや **銀垢師** 万れ
 蒸おのむ換とくまの金
 あり、金金の使中、まのむら
 け **銀垢師** 万れ
 あり、金金の使中、まのむら
 け **銀垢師** 万れ
 あり、金金の使中、まのむら
 け **銀垢師** 万れ



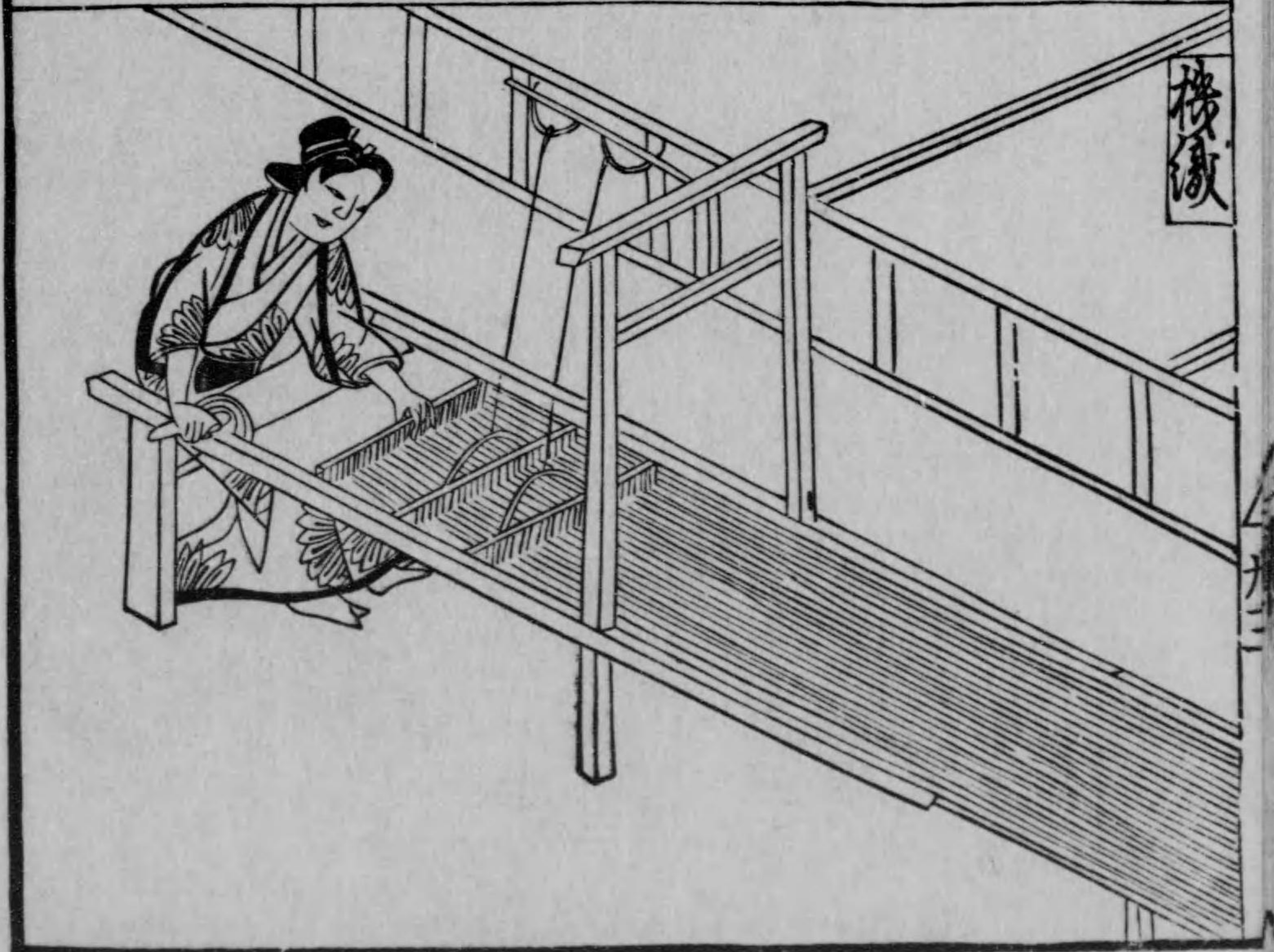
縁掛師 仏衣の三具足で
 一先金の糸お枝扱と
 しくらい井つけ綱谷の
 も同しおあり 湯煎や
 一切の洗濯垢みらみ
 わつこのぐらあすのあり
 又しや新本因つけあり
 同しおあり 洗濯カ
 洗濯一切のよれを
 のびこしに消する炭さ
 あくれ業力よのりあ



いをくは 綿摘 帽子綿
 小袖中へくもことつひあ
 業あうもや女又の小ひ
 めれお包めてほおあり
 してちさけありけよま
 らしくえゆつへけいこ
 横織 春物元夜あまのり
 くるすあまの沙綾純子お
 毛織のたぐひめつるもえ
 ぬるあひ織人あはる
 ぼん男女の包ああり又



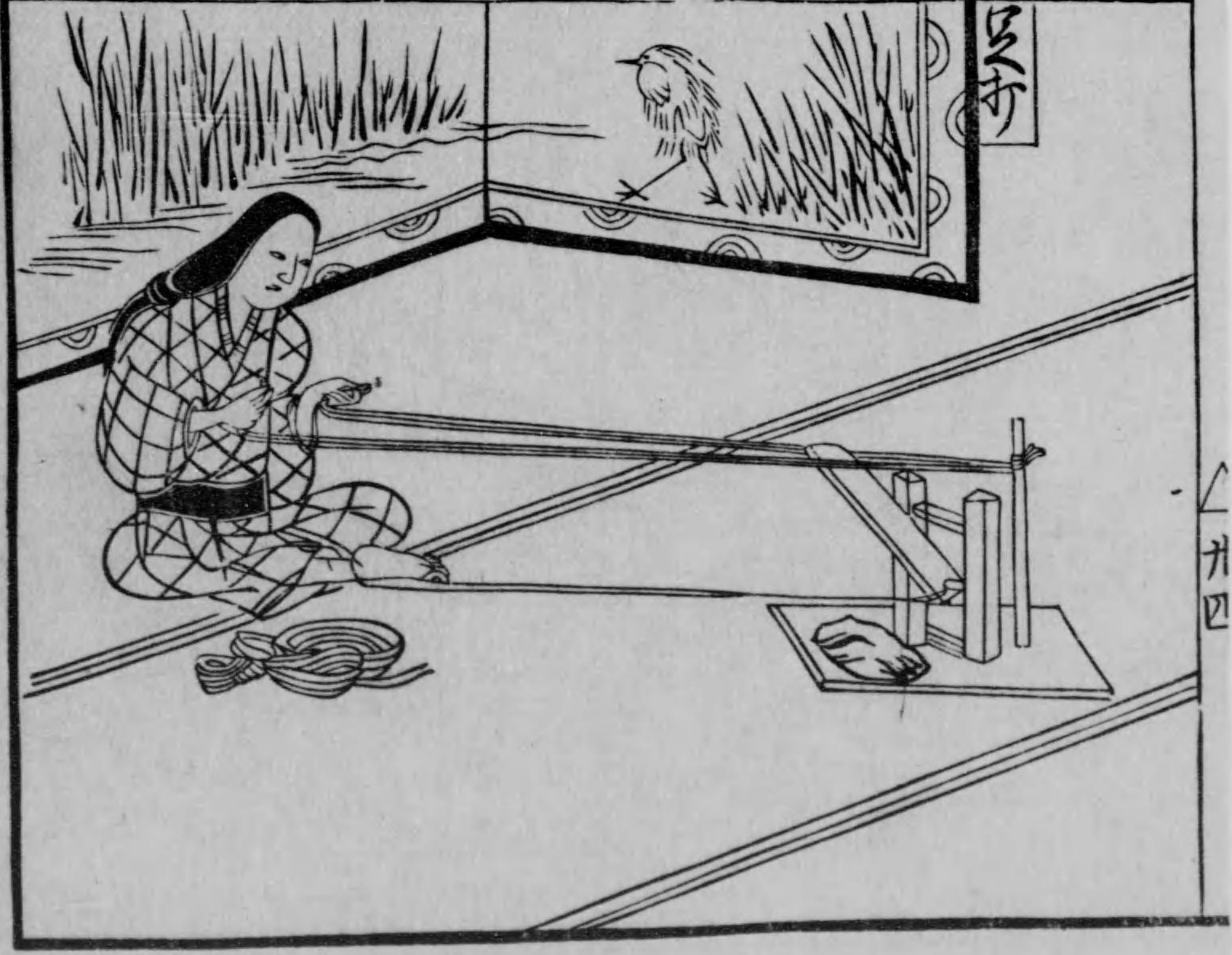
貞徳とらん人のたぐひ本朝
 國々よりつづる 麻子結
 女の正徳よりらん人の帝
 小麻子ゆららるとは清浄
 わりて結せぬゆへに麻子
 とらん人や 本朝打 男女
 とまじらぬ打を母なる
 とらうしそららの節とつ
 るよかけこれと打あり夜
 打ありそららのよりそらり
 打 大小の柄糸目共はの



かうい糸をいと細くぬい糸
 とまじらうらひ目をいそぐ
 らいさた木刀にて打ゆい
 打りい女のうごめり又下
 結ありそら打らんをら
 ぶの糸男が打あり
 糸り 一 室町一糸と元
 義作室町三糸下し町は
 外ありまあり男板よき
 一 糸 糸のりや
 童男 童女のりてわを
 ひ玉やりくまらちやう



たつこころくくしんらんまき
 うふくひめくしんらんまき
 てうらゆめかぎんらん
 けほつういひあく新町え
 の柳よみせつらんらん井柳
 とあごまよ **あじ御所**
 ち社へ法馬とからん法親
 法親のほめくしんらん
 よらよらかきしんらん
 とつとつや今世の柳枝奇
 よらよらしんらん高まりち所
 二条しんらん三條のるまあり



かづ御 洞まき下地と
 うら下下は髪毛とうつま
 む前の方女角茶髪に
 て髪をすつけり髪親
 仁方とまきくしんらんあ
 るし四糸縄もよあり
佐牌御 いまへよりあり
 一あやめめち殿難波の浦
 まて老尼のあよおとまりあ
 りしそのとまきんらん
 らにそのあよらあされ
 さりりしとまき記徳自



よみしころも町よわり
 合葬師 死人の死骸と
 冥地と抄を移る毎箇々ある
 合町よわり人の一生の事
 りらゝ考ふはのりうてさ
 はせそく死てカよそま
 の、強がさひく六た後、ま身
 とわさじのりまの、合葬桶
 とさびげ職とつゝなむも
 ぐゝ意地のまきこつげ洗
 くりつゝ物と合の、為若
 の入と物そく



印行
 第納力
 内

大正十年三月廿五日印刷
 大正十年三月廿八日發行

第二期
 第九回

編輯者

東京市牛込區富久町八十四番地
 編輯兼發行者 山田清作
 東京市下谷區御徒町一丁目七番地
 印刷者 阿部鍋五郎
 東京市牛込區富久町八十四番地
 發行所 米山堂

電話東京三三六九
 郵便東京三三六九

15
396

終